

空間演出デザイン学科

教育目標（育成する人材像）

空間演出デザイン学科では、これからの社会に何が必要かを問うことを前提としながら、多様な人々が生き生きとくらせる創造的な社会を築き上げていくために、社会における課題に真摯に対峙し、デザインを通じて解決すること、さらにはそのことによって新たな社会的価値の創出を実践することに積極的に取り組もうとする人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

修得する能力

探求力	世界を深く観察し、未知のものへと挑んで行くことを通じて、新たなもの・ことを発見することができる。そういった力を応用し、社会の潜在的な課題を見いだし積極的に取り組むことができる。
思考力	現実のものごとを深く調査・分析し、そこから多様な意味のある関係性を構築することができる。また、既存の意味を疑い、これまではあり得なかった関係性や価値をつくりあげることができる。課題と解決の双方に、新たな視点で取り組むことができる。
発想・構想力	概念を生成していく過程において見出せる独自のことばやイメージをもつことができ、それを現実のかたちにもつづけることができる。また、社会的な条件のもとで新たな意味をもつ計画をたて、現実化することができる。
表現力	他者に伝えるために、発見した価値や関係性をことばとイメージをもって現実のかたちとしていくことができる。課題に対する解決策として、より魅力的なかたちを提示することができる。
行動力	デザインを提案するだけでなく、自らの意志を持って、動くことができ、社会の課題を解決へと向けていくために提案を発信し実践することができる。
継続力	積み上げていくことによって、より大きな目標に到達できることを自覚し、向上心を持って課題を続けていくことができる。
コミュニケーション力	他者を知り、また自己を知りながら、ものごとを的確に理解しかつ伝え、世界を広げていくことができる。また、さまざまな人と相互に協調し、社会の中で関係を構築することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

空間演出デザイン学科では、空間とファッションの2分野を通じて、社会の課題解決にデザインで提案・実践できるようになるために、以下の2項目を主軸としたカリキュラムの構成・内容を学修します。

- 各コースのカリキュラムは3つの領域で構成されています。
 - 専門デザイン領域（空間・ファッション・ジュエリー）
専門のデザインを基礎から応用まで、体系的に学びます。
 - クリエイション領域（ビジュアルデザイン・造形表現・各種プロダクト）
プレゼンテーション力を養い、かつ専門デザインの表現や幅を広げるために学びます。
 - 総合領域（①ソーシャルデザイン・マネジメント ②キャリア・専門講義）
 - ①専門とクリエイションを統合し、課題解決のデザインができるように、応用的課題やプロジェクト型の課題を中心に学びます。デザインを社会で生かす方法論とともに学びます。
 - ②1年次からのキャリア科目で、人生の組み立てを考え、卒業後の進路を主体的に選び取れるようになるための授業を、年次ごとに目的を明確化して修得します。
- 課題解決を主体的に取り組むことができるように、行動力やコミュニケーション力を重視して養う授業を取り入れます。
 - 総合領域の学科合同授業（空間演出科目）やキャリア科目を中心として、他者や社会と連携しながら協働・交渉し、自分を社会で生かせる力を身につけます。

社会との関連は、総合領域での産学・地域連携授業を中心に実施し、3年次で「社会実装授業」として、実際に社会で成果を得るプロジェクトを実施します。

学修方法

- 学科としてコラボレーション（他者との協働）の修得を目的とし、チームでの制作を重視します。グループ運営やコミュニケーションの取り方、制作プロセスの構築、プレゼンテーションなどプロジェクトワークに必要な方法を初年次より学びます。
- 社会における課題解決のデザインを修得するために、PBL型授業を各学年で目的を明確にして実施します。フィールドワークや産学連携をベースに主体的に行動しながら、社会での実践的制作に取り組みます。
- 課題遂行型の授業においても、グループワークやプレゼンテーション、学生同士のコメントなど能動的に関わることで授業が成立する工夫を行います。
- 授業と授業外学修の両方が単位のために必要です。演習科目では課題の完成に至るプロセスの充実が基本となり、講義科目では、予習・復習のみならずリサーチや参考図書での知識の拡充など、主体的学修が必要となります。